

諒州

自与呈天

三二四



四曾  
775  
259

誘草卷之三

與第十五



婦

姑シヤメよなほ

學範古詩云人命百年能幾何

後來新婦今為波

世ハシクニハ

秋

琴シヤメハシクニハ又ハシクニハ人ハシクニハ今意シヤメ

琴シヤメハシクニハ又ハシクニハ人ハシクニハ今意シヤメ

琴シヤメハシクニハ又ハシクニハ人ハシクニハ今意シヤメ

世シヤメハシクニハ又ハシクニハ人ハシクニハ今意シヤメ

常懷千歲憂而淵明以五字盡之曰世短意常多

是也東坡云意長日月促倒用陶詩

用ハシクニハ又ハシクニハ人ハシクニハ今意シヤメ

天下之名言也凡用ハシクニハ又ハシクニハ人ハシクニハ今意シヤメ



俗語

餘慶

易經坤文言曰積善之家有餘慶今俗小

物の多きを海老のつらと云ふちうら海斗とて云ふんじ  
結婚 俗小親男の海釣すりと云ふと云ふ糸糸と云  
他國 爾結婚行而太刀之緒毛未解者九夜曾明  
家流

よきり

夕方のりを云枕するしりしり

備 孟子仲尼曰始作備者其無後乎為其象人  
用之書言故事云倡端不善謂作備今俗よ備

尋常

類書纂要猶言庸常又詳よ志乃字部よ

容儀

文選陸士衡樂府詩云窈窕多容儀

用心 潘安仁藉田賦展三時之弘務致倉廩於  
盈溢固堯湯之用心而存救之要術也俗よよて

慾欲 志とくろいと用ふと云

埃囊抄よ下廊の物と食する事とよくるいと云

餘黨

後漢書羊續傳よ出たり

黃泉

万葉集よ黄泉之界とあり神代卷よハ黄泉を

綸

詩經註云理絲曰綸

幼少

漢書王莽傳成王幼少

正論

餘饒

物の多きと云よん  
にさうと云ハ誤

諺 大名、大耳。東方朔答客難云。冕而前旒所以蔽明。齷纴充耳所以塞聰。張平子東京賦。夫君人者。齷纴塞耳。薛綜註云。言以黃綿大如丸懸冠兩邊當耳。不欲妄聞。不急之言也。慎子云。慎到不聰不明不能為王。不瞽不聵不能為公。是皆大名、大耳也。新考。大行不顧細謹。史記項羽紀。樊噲曰。大行不顧細謹。大禮

不辭小讓。

多分よつけ 尚書曰。三人占則從二人之言。左傳欒武

子云。善鈞從衆。新攷。

玉不琢不成器。人不學不知道。學記曰。玉不琢不成器。人不學不知道。

大海とよまぐせく 前漢書何武傳曰。以一簣障江河。用

沒其身。又東坡詩集註曰。諺有側手障黃河之語。類書纂要云。張德云。以一掌堙江河。

樂ハ哀のそとへ 史記淳于髡云。樂極則悲。

漢武帝秋風辭曰。歡樂極兮哀情多。文中子

云。易樂者必多哀。新攷。

寢乃山ノ入てむる 蔡虛齋四書蒙引曰。

所謂入寶山空手回者也。新考。

螳螂ヶ斧を降車ノ向ふ 莊子曰。螳螂之怒臂以當車軼。則必不勝。

任矣。淮南子曰。齊莊公出獵。有螳螂舉足將搏其輪。

下畧文選四十四曰。欲以螳螂之斧禦隆車之逐。註云。

前有兩足。舉之如執斧之象。又史記云。運螳螂之斧。

と云復何の。そ皆世流乃出也。

大物ハるつと云 此乃流ハ斧の半功と後久と強て取也。

みぐへ 米くさくさくといふ。大なるもの。

少つてるもの。と云。枚乘書曰。泰山雷穿石。

少つてるもの。と云。枚乘書曰。泰山雷穿石。

彈極之綆。斷幹。水非石之鑽。索非木之鋸。漸靡使之然也。是と久しく積く。自然よなるの論也。

大海の塵と名く。戰國策云。大山不讓土壤。故能成其大河。海不釋細流。故能就其深。

史記樂毅曰。古之君子。交絶不出。立身祿とけ。善い。

惡聲。忠臣去國不潔其名。是流の事と同し。新考。

鳥のれぬれと積とつまる。つむとく食する。枕草子。

根つとくしうけり。後の事。我とちり武士。ハハハ。

似く及た。不爰乃作流と。交どく。木子白詩曰。鳳飢。

不啄粟。所食唯琅玕。焉能與群雞。刺促爭一餐。世。

流よく似るる也。

薪と抱く。火と救く。戰國策。魏孫臣曰。抱薪而救火也。薪不盡則火不正。

太平記云。之上。笠玉と凡。

直道。竊按此語。藤原。

哥不出所。既見乎家物。本の陰く。まよせ。下。流。乃。も。り。く。と。流。せ。く。ま。く。

都落段。口か。歩。れ。せ。わ。か。ぬ。れ。む。本。乃。か。小。る。乃。ら。せ。む。ら。せ。む。下。出。し。

後。流。乃。時。梢。と。く。く。似。の。風。と。雨。乃。あ。り。と。す。り。し。

顔氏家訓云。窮鳥入懷。仁人所憫。

晋尤思魏都賦。蓼蟲忘辛。白氏文集自。

詠詩云。何異食蓼蟲。不知若是苦。五車韻瑞云。孔叢。

子。有蓼蟲賦。言是蟲。幼長斯蓼。不以為詩。

大富長者。俗小。大小。あり。人。と。云。法。心。も。老。者。居。安。乃。址。と。

く。何。里。是。昔。富。農。大。賈。乃。後。の。形。り。し。宅。址。を。り。し。

神相全編云。手仇如瓶。瓦必作大富長者。

天竺。大富。長者。下。以。仏。書。を。記。す。

大富長者。俗小。大小。あり。人。と。云。法。心。も。老。者。居。安。乃。址。と。

く。何。里。是。昔。富。農。大。賈。乃。後。の。形。り。し。宅。址。を。り。し。

神相全編云。手仇如瓶。瓦必作大富長者。

俗語

鍛鍊

前漢書路溫舒上疏曰鍛鍊而周內之後

漢書韋彪傳鍛鍊之使注云鍛鍊猶成熟也猶工冶

陶鑄鍛鍊使之成熟也今俗以泥珠刀字為之尚也

退屈

圓覺經云無令惡魔及諸外道惱其身心令生

退轉

涅槃經云心無退轉即便前進 圓覺經云

晨夕守護令不退轉

稻麻竹葦

法華經云出之

大半 史記項羽紀云出之注韋昭云凡數三分有

二為大半一為少半

大悅

孟子云出之史記龜策傳云大悅而喜也

大分

漢書百官表故畧表舉大分是八大畧乃之用也

今俗云多ささりと大分と云はさささるる  
大既 助語辭云如大既則用既於斗榭之面坦然一平

大魁

五車韻瑞云大魁と連用する字あり今俗小物の

果りと大魁と云

端的

史記魏世家注云出之今俗云俗流のさく

邂逅

詩經鄭風邂逅相遇適我願兮朱傳云邂逅不期

而會也といふ如川のさく

打成一片

朱子曰如金石絲竹匏土草木雖是有許多

却打成一片云云今俗流のさく

膽斗

蒙求姜維膽斗といふ蜀志云世語曰維死時見

剖膽如斗大今俗云物のさく事と膽斗と云大なる

大膽

俗云勇氣乃さくさくのと大膽者と云靈樞論

勇篇云勇士者其肝大以堅其膽滿以傍又千金方孫

思邈云心欲小膽欲大是ホよりつを俗流のさく

田作

田と耕りと田作りと云中華よと云何り前漢書

龍遂傳云齊俗奢侈好末技不田作九田云云田圃  
西之田南方之人指有水種稻者為田也  
謂之田南  
滋氣 色了然  
後すし記と滋氣と云

斷絶 史記燕秦傳し出るる木子白詩寄君郢中歌曲  
罷心斷絶

愴弱 前漢書江充傳御史大夫賈延愴弱不任職  
詩經揚水人實廷女

大老 孟子云二老者天下之大老也  
無賴 史記高祖記し出るる無聊之又し

檀那 李陵答蘇武書し出るる注し賈逵國語注し聊賴也  
管覺要覽云梵語陀那鉢底唐言世至稱檀那者即  
訛陀為檀去鉢底故曰檀那今俗し之君のりし檀那と云

之世しと云云より知らるるや姑ハ之志と推ぬと云りいふ  
りしれりしと云云今ハあきく後と云りしと云云  
云々しれりしと云云

對揚 詩經云對揚王休

大畧 孟子滕文公篇云此其大畧也

大體 史記貨殖傳云大體如此

大抵 史記莊子傳し出るる索隱云大抵猶言大畧也又

大氏 史記秦本紀し出るる註猶略也

大要 小學句讀大要猶言大抵

容易 東方朔傳し出るる

大慶 易經履象し出るる

盤桓 易經屯云初九盤桓註難進之貌  
字彙住足也文選謝希逸誄注躊躇行止貌

躊躇 詩經愛而不見搔首踟躕註行不進也

娘將 字彙云行不正貌

無且暮 俗之家と云く。後約を以てのといふなりと云。

且ハ言と云く。言ハ且と即ちなり。忍むるの意と云。

又且言動と云く。乞より以て詞と云。

他界 和俗のりなりと云。東鑑十五云。稻毛三郎重成。

東於武藏國他界

慥 系系集の訓。中庸章句。慥々篤實貌。言行わく

一と云く。慥と云く。慥と云く。俗流のりなりと云。

云と。ば系と云く。

方便 佛書より出たる字也。 此の字部

譖語 醫書より多く出たる字也。字彙云。譖多言也。たハこと

と訓。あるハ。多流言なるべし。

墮落 稍あると云く。と云く。脱ハ病しなると云く。墮

落離と云く。又と云く。と云く。と云く。古音ある

より。物。ある

丹青 畫米と云く。と云く。と云く。と云く。と云く。

對面 後漢書蔡邕傳。相見無期。惟是書疏。可以對面。

阿那 文選南都賦。注。善曰。柔弱之貌。

達者 文選阮元瑜為曹公與孫權書。曰。達者所規。規於

未兆。注。向曰。達。謂達理者。仲長統。樂志論。與達者數子

論道。講書。是と云く。及と云く。と云く。今俗ハ人乃

健ハ心と云く。と云く。と云く。と云く。と云く。

大造 尤傳。呂相曰。我有大造于西也。杜預曰。造成也。

文選。陳孔璋檄文。云。有大造於操。注。濟曰。造。恩也。有

大恩。謂救之。今俗ハ人乃。造と云く。大造のりと云ハ。

大恩のさなり。 又約のさなりと云ハ。大壯の

帶佩 力ハ佩ハ。と云ハ。帯佩と云ハ。 倭俗。太刀。刀と

帯ハ。帯ハ。太刀。刀ハ。恰好と云ハ。帯佩と云ハ。





諺

遼來

魏志曰張遼字文遠。雁門馬邑人。武力

過人數。有戰功。累轉前將軍。蒙求舊註曰。江東小兒

啼怖之曰。遼來遼來。無不止者。日本よといふ。傳りて

小兒と怖るるはとて。遼來とて云ふこと也。易文言曰。雲從龍。淮南子云。龍舉而景

俗語

零落

楚辭離騷曰。惟草木之零落。朱子注曰。草

曰零。木曰落。

朱子の注は此の如し。落字草句よ。出付ハ。草乃衰

俗。人の死らふことと零落とて云。琵琶行門

前零落鞍馬稀。元遺山詩。常教零落在蒿萊。又人

乃死。とて零落と云。白樂天詩。舊友零落

半歸泉。

靈驗

遊天山賦。觀靈驗而遂徂。

聊爾

山谷詩。且然聊爾耳。

薛文清五友詩。紐香聊爾

意徘徊。詩箋云。聊且畧之辭。聊爾とて。そのよきと

云。尔ハ助字なり。土佐日記。いさりたりと云。と

何れ。今いふとて。此之也。

料理

晉書桓冲傳。出とて。料理とて。居家必用

合均也。割烹とて。料理とて。何れハ之也。

菀菑と制とて。料理とて。何れハ之也。

料理とて。何れハ之也。

料簡

後漢書。出とて。通鑑集覽云。料。度簡選也。俗

よ。了當の字とて。字彙了。曉也。簡選也。料理とて

とて。了當の字とて。字彙了。曉也。簡選也。料理とて

鍊磨

社とて。臨濟錄。體究鍊磨

歷

韻會云。爾雅。注。歷。數也。一。か。か。何れハ之也。

とて。歴とて。云。楞嚴經。此歴。地聽者。臨濟錄。是。備

目前歴の底。

領掌 うけつらさども 領承と書。字彙云。領統理也。

承上令下謂之領

領解 心は領掌 解秋と云。そり留のたがいぬ

何と俗に領解と云

禮儀 中庸禮儀三百

廉直 後漢書嚴彭祖為大傳廉直不事權貴

正論

整等

まいてんぐ  
あやまり

曾第十八

諺

孫の苗みく

は流はそ先祖苗と次はそ子孫亦必苗

少く者あり。是祖先の遺教は係り。國史纂異云。唐閻

立本見張僧繇舊畫曰。名下定無虛士。是安公同宗の

蘓民將來子孫。今俗符璋に記し。又流乃如くともあり

神代在物也。神代外流と云く。家茂鳴也。根乃公は

そり亦句あり。凡そこれ。奉方と。どうそ宿と

乃神よりぬ。徳神よりこれ。時よみ。乃公は

蘓民の才。巨且の才。一見才の者。乃公は。蘓民の家。其

才也。心は。心は。心は。巨且の家。乃公は。心は。心は。心は。

あり。素茂鳴也。是宿と云ふ。乃公は。乃公は。乃公は。

乃公。蘓民。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。

涯分れ。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。

乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。乃公。



ふらふら河に流るる奴も...  
それけよ。又下宿の庭...  
そと系をさうけり。日か...  
しうきとて...  
らまゝなり。さうきとて...  
河のあはれもあはれけり。

孫 主人の苗裔と云ふ...  
子のふとり...  
哀公十六年...  
粗 類書纂要云...  
啐 啐咏如雞抱卵...  
啐 啐聲曰啐...  
後而解亦猶是矣

聰明 書經泰誓上曰...

倉卒 倉卒と云漢書平帝紀...

些 些と云楚辭...  
些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也

些 些と云此乃字の音也



疎畧 漢書司馬遷傳疎畧甚多

贓物 下字の事。贓物の盗物。字彙云。贓吏受賄也。凡

非理所得財賄皆曰贓。曰贓は凡ゆる所。盗物は凡ゆる所

奏 といふ。天子よとの事。奏と云。奏聞。皆奏をい

ふ。日びてと曰。皆。奏者といふ。必其部を

某 祖庭事苑曰。某如其在木上指其實也。然猶未足以定

其名。某と云字ハ。いさぐさ其名をいさぐさの事。い

る。其者といふ。類皆用。今の俗成。自稱して

某。云。禮記。孝王某。孔安國註。某名也。臣諱君故曰

某。凡不知名者。皆曰某。又曰。人をもいさぐさ。い

ふ。と。自稱。いさぐさ。某と云。いさぐさの事。い

存命 魏書云。僅得存命。

粗末 某と云。粗末の法あり。是。いさぐさ。い

の粗細。いさぐさ。粗末と云。

撩 山谷水仙花詩。暗香靜色撩詩句。註。王介甫詩。物

華撩我。有詩句。

正譎 藏六。即時。其様

事。存外。續叙。夫。其方

誤

諺

月盈ハ缺カ 易豐彖傳云日中則昃月盈則食

史記蔡澤云日中則移月滿則虧 釋名云月缺也 滿則缺ハ移カ

角也... 牛之... 氣... 都離子曰夷門之瘠人頭  
一曰大... 害... 元... 口身鼻身俱不能為用郟封  
没于脾而瘠代為之元... 人憐而為之割之人曰瘠不可割也弗聽卒割之信  
宿而死國人克焉辭曰吾知去其害耳今雖死瘠亦  
七矣國以掩口而退之角也... 牛之... 秋之

俗語

措ハ容ト又ハ同一 漢書文五王傳第門措指注

師古云音壯容及謂為門戶所措

強顏 漢書司馬遷傳云言不辱者所謂強顏耳

通鑑第四十九集覽云強顏猶言顏厚也今俗云

無恙

事物紀原曰演義曰時人以無憂疾謂之無恙

戰國策曰歲無恙耶王亦無恙耶乞女恙乃字の也

也史記刺客傳曰為老母幸無恙妾未嫁索隱曰爾

雅曰憂也楚詞云還及吾君之無恙風俗通云恙病

也易傳云上古之時草居露宿恙齧蟲也善食人心

俗恙患之故相勞云無恙ハ非病 神異經曰北方

有獸曰恙ハ恙也常近人村落入人屋室人皆患之

黃帝殺之由是北方人得無憂疾謂之無恙此其始

也廣雅曰恙ハ恙也恙ハ恙也恙ハ恙也

也... 又無恙... 說文...

史記黥布傳印刻

又無恙... 說文...



一二 文選司馬遷報任少卿書事未易一二為俗人言也。註翰曰一二謂委曲也。

禮樂記知類通達

家拂 埃囊抄云。若の北の最初。云々と早下。了

亦用云々。極其。沈沈乃以舎の對する。以。皆。人

未。云々。以。所。心。云々。之。如。云々。知。云々の。意。と。云。云。

亦。拂。と。云。云。沈。沈。乃。以。云々。乃。敬。云々。

押。正。つ。門。と。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。云。

孰 和俗。借乃字。云々。云々。云々。云々。云々。借。庸。と。

同字。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

源。時。細。詩。情。看。新。艷。嬌。宮。月。是。云々。云々。云々。云々。云々。

追。從。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

追。從。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

通路 宋史王韶傳斷夏國通路

噉 司馬相如大人賦噉瓊華註噉食也。說文噉小食

也。源。云。帝。未。也。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

結 詩經註以衣貯之而執其社也

又云。以衣貯之而扱其社於帶間也

**正論** 頭巾 誤 冷 終 綴衣 誤

諺

念力定之函 韓詩外傳曰楚熊渠子夜行見寢石以

為伏虎射之没金飲羽視之石也因復射石矢摧無迹漢書  
云李廣守北平出獵見草中石以為虎射之中没鏃視之石也  
明日復射之石不能入矣後周書曰李遠嘗校獵沙柵見石  
叢薄中以爲伏虎射而中之鏃入寸餘就見乃石也乞防  
海人乃一念力之函

誠之至也金石為之開况人乎程子曰陽氣發處金石  
亦透精神一到何事不成

鷓鴣

說苑云君子愛口虎豹愛爪古諺

云將飛者翼伏將噬者爪縮

俗語

膪 發結曰膪

涅槃

心經注涅槃乃不生不死之地一切修行之所

世人誤以為死大非也

年紀

宋之問詩幽溪忘年紀

祖

史記張良傳云良與客祖註伏伺也謂祖之伺物必

伏而候之故今云祖候是也

正論

鏡 斂 今一物之兩面也 且鏡と斂と二物也

諺

杖履視日登莫侍坐者請出矣新考  
禮記云侍坐於君子君子欠伸

杖履視日登莫侍坐者請出矣新考

人有七鐵者意其隣之子視其行步竊鐵也顏色

竊鐵也言語竊鉄也作動態度無為而不竊鉄也

俄而扣其谷而得其鉄他日復見其鄰人之子動

作態度無侶竊鉄者ことごとく疑心生黯鬼ことごとく

名乃下列子の國史纂異云閻立本見張僧繇

畫曰名下定無虚士

荀子云君子養源

清則流清新考是流と流ことごとく

名乃下列子の國史纂異云閻立本見張僧繇

畫曰名下定無虚士

荀子云君子養源

清則流清新考是流と流ことごとく

名乃下列子の國史纂異云閻立本見張僧繇

畫曰名下定無虚士

荀子云君子養源

清則流清新考是流と流ことごとく

名乃下列子の國史纂異云閻立本見張僧繇

畫曰名下定無虚士

荀子云君子養源

清則流清新考是流と流ことごとく

名乃下列子の國史纂異云閻立本見張僧繇

畫曰名下定無虚士

荀子云君子養源

清則流清新考是流と流ことごとく

俗語

難問

納受 法華經化城喻品ことごとく

從疑問のりことごとく張ことごとく云白氏文

集云其間有所疑即請更難ことごとく乃ことごとく又ことごとく

媒口

云古人謂周人惡媒以其言語反覆ことごとく給女家則曰男

富給男家則曰女美ことごとく述世尤甚新考

俗語

難問

納受 法華經化城喻品ことごとく

從疑問のりことごとく張ことごとく云白氏文

集云其間有所疑即請更難ことごとく乃ことごとく又ことごとく

天智天皇御製

名乃下列子の國史纂異云閻立本見張僧繇

畫曰名下定無虚士

荀子云君子養源

清則流清新考是流と流ことごとく

名乃下列子の國史纂異云閻立本見張僧繇

畫曰名下定無虚士

荀子云君子養源

後漢丁鴻傳使中郎將承制問難

形 枕草子よりさうやくなりなりとつ録よやくとある

直會 日本紀持統天皇紀より掌乃字とある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也

之れ 枕草子よりさうやくとありてある

波餘 尤傳晉重耳對楚子曰其波及晉者君之餘也



埽明 ラチアム 埽行と並べて埽らるものなり今埽的と云ひは古詞なり

而如之春日大明神祭礼の時一祝神樂なりよらるるに

埽と併て人の名にすらしき事と埽ししに埽此今春祭

儀中祭とわきて如く埽流儀の如く併て埽と併て送ると

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

一頁九句の埽的

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

埽次 ラチ 併て埽の次なりと云はれしに埽の次なりと埽的と云はれり

**正論** 無埽次 ラチ 字義ありて埽なり

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

好埽必三百人齊吹南郭先生不善埽而濫於三百人之

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹

中以食祿宣王薨潛王立欲一一欲之先生乃逃而郭濫吹



汝或物汝を...

有... 礼記經解云不隆礼不由義謂之無方

無方 礼記經解云不隆礼不由義謂之無方又史記禮

書曰禮者人道之極也然而不洽礼者不足禮謂之無方

之民註鄭玄曰方猶道也俗... 禮記

史記魏世家... 韓非子曰人

無能 史記魏世家...

有彌鬲矛與楯者譽其楯之堅物無能陷也俄而有譽

其矛曰吾矛之利物無不陷也人應之曰以子之勇

陷子之楯何如其人弗能應也好古按丹鉛錄引用尺子是より

言也又中のめ... 後漢黃霸傳夢想賢士唐李白詩日夕聽猿愁

夢想 後漢黃霸傳夢想賢士唐李白詩日夕聽猿愁

懷寶盈夢想

無常 名義集云薩迦那此云無常親氏要覽祐法

師序生滅輪迴是云無常云也心影幻是云苦本

方より浮屠氏世の枯爰云無常云儒家

の次云云

謀反 史記張良傳... 通鑑凡例云有謀未

發者曰謀反

無下 淮南子云深無下

熟 萬の半と云云...

無縁 涅槃經云得諸菩薩無縁之慈

向火 日本武尊東夷と云云...

野と云云 尊十握劔と云云...

向火 日本武尊東夷と云云...









迂詐 俗の偽と云く云く迂詐字也中華の書小迂誕と云く因  
胡亂 伊洛淵源録等も胡亂の字外よりうらん語也又胡亂

容畜 文選南都賦註向日船行貌うゆりともわ洲せり

寫 韻會云轉本曰寫又篆畫曰寫又器と例して中にある也

諾 孟津抄も諾と云く云く曲礼曰諾之灑者不寫其餘皆寫

本居 風土記も尾州高梁郡若菜郷も宇支復那社あり

廣入娘 誕生養尾の地なりおけ之ありと云く廣の地業行  
又あかぐら神のひるくとも只あせの地ともいふすか

と云く日本紀も本居と云く

正誤 烏兎昏 烏は日也兎は月也日入て月未出也 雲泥万里 雲天也

天也烏兎昏と云く 疎 何しと云く 鰻鱧 鰻は魚也 影護 影は護也

容畜 容は畜と云く 莫 莫は暮と云く

乃 第二十五

諺 農民の息が天よ上る 人事りんたぐへん 天変上よあ

ころろとちんちんころろとあかぬ。美濃のちんちん。大和のころろと

ころろとあかぬ。げくおきその風はきりまきりまきりまきりまきりま

き。天よころろなり。雲の息が天よころろと云く誤也。農民の息が

天よころろと云く。一更もまきりまきりまきりまきりまきりまきりま

半とあかぬ。民感にして父母のころろと云く。作さすころろと云く

あかぬ。祥瑞多く。鬼と云く。風はきりまきりまきりまきりまきりま

大平の世より。也。下と云く。けりまきりまきりまきりまきりまきりま

農民もあかぬ。た。七人半。けりまきりまきりまきりまきりまきりま

其曰王者以民人為天。そと俗流のさす。新考。能 俗。材氣ありと云く。書經大禹謨云。



愚人其のむ。飛で火よ入。後魏史崔浩云慕容垂人

歸之若夜蛾之赴火事文類聚續集曰愚人貪財如

蛾赴火○心地觀經云心如飛蛾愛燈也燈字彙云拂

飛蛾飛火火謂之

飛火火謂之

黑犬よくられて灰の和澤よ松る 唐傳爽曰懲沸羹者

吹冷齊揚弓之鳥驚曲木之突之回方の流なり

會稽の恥と云く 史記貨殖傳云勾踐十年國富遂

報強兵刷會稽者之恥新考○越王勾踐の事ある

朽繩よすり付が如く 書經曰予臨北民凜乎若朽

索之馭六馬一流とす

唇薄きものばくものいふ 靈樞逆順肥瘦篇曰岐伯曰

瘦人者皮薄也少肉廉廉然唇薄輕言

登馬 戰國策曰諺曰以書為御者不盡馬情これくけ

るしそ。又城固禪ありあり

充陰矢の如く 山谷詩云日月過箭疾邵子詩云歲華

如箭止堪吁顏氏家訓云充陰可惜譬諸逝水そと充陰

矢の如くしそとあ 新考

夏あつとろまき 年月のいふとく

管の穴くえとのぞく 史記扁鵲傳云若以管窺天以却

視文又史記云少見之人如從管中闚天前漢書東方

朔傳云以管闚天以彗測海又加の字

蝸牛の角の争ひ 世のさうさくさく 莊子云有國于

蝸之左角者曰蠻氏國于蝸之右角者曰触氏時相與

争地而戰伏尸數萬逐北旬有五日後及白樂天詩云

蝸牛角上争何事

藥人と教ふに醫師人と教ふ 東坡文集云蜀諺曰學書

者紙費學醫者人費○新考

勸學院カクインの崔スエ八蒙求ハモウと轉マシる

の名あり。日本後記と考ふる。天長三年二月。夜亦ヤク老翹カウ

始て云々。拾芥抄シツケイ。勸學院カクインの條ジョウのノ壬生ニシウのノ西サイより

今イマを遺址ユイシと崔スエ森シンと云々のノ勸學院カクインと盛セイるノ學問ガクのノ約ヤク也ナリ

竹タケハニ道ミチ極キョクるノ崔スエとト約ヤクるノ也ナリ

そとト學問ガクのノ志シ盛セイるノ也ナリ

崔スエとト八ハチ僕ボク隸レイのノ名ナあり。又マタ蒙求モウモウのノ呂望ロウソウ非ヒ熊クマと云々のノ也ナリ

黄ワウもモ此コノ約ヤクるノ也ナリ

云々の笑苑千金あり。蒙翹讀の論語百古教之と云々の笑海あり又マタ八ハチ情ジョウ愚ウ童ドウ記キと云々のノ也ナリ

愚者ウチヤのノ一得イツトク 史記シキ淮陰侯サイインコウ傳デン廣武君コウブクニ曰イハレ智者チヤク千慮センロ必有一得イツトク

失シツ愚者ウチヤ千慮センロ必有一得イツトク

俗語ソコゴ 供養コウヤウ 禮記レイキ月令ゲツレイと云々のノ陳註チンチュウ供養コウヤウ膳服テンボク之ノ具グ也ナリ

今イマ俗ソコとト之ノ祀シと云々のノ佛ブツとト供コウするノ也ナリ

今イマ俗ソコとト之ノ祀シと云々のノ佛ブツとト供コウするノ也ナリ

易イ係ケイ緯ヱ思シ過カ半ハン矣ナリ又マタ史記シキ平原君ヘンゲンクニ傳デンと云々のノ也ナリ

過カ半ハン 史記シキ匈奴傳コウコと云々のノ也ナリ

過カ當トウ 史記シキ匈奴傳コウコと云々のノ也ナリ

文章軌範ブツカク註チュウ刑殺コウシツ匈奴コウコ倍多ヘイタ故曰コトヘ過當カトウ也ナリ

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

寬カン大ダイ 漢書カン宣帝ケンテイ記キ。宣帝ケンテイ詔シウ云ク務行フコウ寬大カンダイ順ジュン民ミン所シヨ疾苦シツク

註大度也。又前漢書高祖紀。豁達大度。

倔彊 左太冲魏都賦。通鑑集覽云。倔通作屈。

屈彊者。彊梁梗戾。不柔服也。文選註。李周翰云。屈強不

順貌。文選四十四卷。屈強の字を用ひり。

扶 史記伍子胥傳。扶。扶。扶。

守株 人の愚。或本と株と。韓非子曰。宋人有

耕田者。田中有株。兔走觸株。折頸而死。因釋其耒而

守株。冀復得兔。兔不可復得。而身為宋國笑。

車裂 左傳。車裂の字と用ひり。又史記商鞅傳。車裂の字と用ひり。

吻黃 俗。年少の人と吻黃。又史記。晉僧深公云。黃

吻。年少。又陳後山詩。不探黃兒。

火急 六祖檀經云。火急速。又東坡集十六卷云。應

口傳 孔安國書經序曰。濟南伏生年過九十。失其本

經。口以傳授。韓文三十八。進頌宗皇帝表云。今之所

以知古。不可口傳。必憑諸史。

口說 前漢書劉向傳。口說。

口舌 史記穰秦傳。周俗。逐什二。以為務。今子釋本。而

事口舌。

癖 增韻。嗜好之病。又偏癖病也。

公使 荀悅申鑒。有公使無私使。

劬勞 詩經。蓼莪篇云。哀哀父母。生我劬勞。劬字。彙。疲勞

也。今俗。之。苦勞の字と用ひり。

桓桓 書經。牧誓云。勗哉夫子。尚桓桓。註。威也。山谷詩云。

群陰彫品物。松柏尚桓桓。

旋踵 漢書。相如傳。計不旋踵。

愚癡 詩經。敬之篇。出。癡說文云。不慧也。





冷義あり。俗よこをけ家よ用ゆ。平家物語よ荒涼の中ね  
とあり

件 韻會曰。說文。件。分也。旁。牛。とかくハ牛ハ物の大なる

ものよして。かや。い。き。れ。り。今。道。條。と。分。け。と。件。と。云。

苦痛 宋史。不堪苦痛。

懷妊 宋史。詔。諸懷妊者。賜胎養穀。人三斗。

養 物とあり。半と云。神代卷よ。せり。

齟齬 曾の字。れ。部。と。云。り。

窳 左氏昭公傳。小者不窳。

草卧 俗。小。德。方。と。り。と。系。列。と。云。そ。山。科。の。入。存。彼。の。よ

り。起。る。記。し。と。今。八。平。人。の。半。と。り。

掛口端 口の。と。り。と。云。半。と。り。齒。と。あり。は。

後撰 あ。れ。と。半。と。り。の。に。れ。と。よ。  
う。と。や。人。と。り。と。あり。と。ん。

華麗 文選。張平子。西京賦。と。り。と。云。や。う。と。り。と。り。と。よ。

あり

回祿 俗よ。大。天。よ。あ。ふ。と。回。祿。と。云。春秋。昭公十八年。傳。云。

鄭子產禳火於玄冥。回祿。註。玄冥。水神。回祿。火神也。

元興寺 都良香道場。法師傳よ。云。法師。ハ。凡。法。國。河。南。

邪人也。年十とあり。此。時。志。力。つ。と。と。考。子。と。り。と。り。と。時。

元興寺の。傍。と。云。つ。と。つ。と。の。淨。堂。と。鬼。あり。と。

お。水。清。と。ほ。く。志。と。教。の。考。子。傍。と。り。と。淨。堂。よ。竹。を。根。

鬼。と。り。あり。と。り。と。考。子。各。鬼。の。政。と。り。と。鬼。と。考。子。

と。力。と。争。て。お。務。の。鬼。ハ。門。て。外。よ。と。ん。と。考。子。ハ。門。て。内。

入。ん。と。ん。説。よ。及。と。鬼。志。統。ま。ん。と。ん。考。子。各。鬼。に。按。と。り。と。り。

鬼。の。按。割。落。て。皮。実。あり。鬼。男。の。れ。と。り。考。子。傍。と。り。と。り。

道場法師と考。今。抄。あり。と。り。と。後。石。屋。あり。位。下。り。と。り。と。り。

鬼。と。ハ。七。寸。強。力。の。人。あり。と。り。と。り。と。り。と。今。世。小。鬼。と。

賺<sup>ズ</sup>必<sup>ズ</sup>目<sup>目</sup>といふ<sup>ハ</sup>とて<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>元<sup>元</sup>具<sup>具</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ハ。

元<sup>元</sup>具<sup>具</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ハ<sup>ハ</sup>思<sup>思</sup>あり<sup>り</sup>とい<sup>い</sup>ハ<sup>ハ</sup>なり<sup>り</sup>  
日本紀の別<sup>別</sup>なり<sup>り</sup>分<sup>分</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>あり<sup>り</sup>なり<sup>り</sup>

頽<sup>頽</sup>墮<sup>墮</sup> 涿<sup>涿</sup>氏<sup>氏</sup>桐<sup>桐</sup>葉<sup>葉</sup>より<sup>り</sup>く<sup>く</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>河<sup>河</sup>海<sup>海</sup>抄<sup>抄</sup>は<sup>は</sup>頽<sup>頽</sup>

如<sup>如</sup>故<sup>故</sup>而<sup>而</sup>不<sup>不</sup>為<sup>為</sup>害<sup>害</sup>

諄<sup>諄</sup>諄<sup>諄</sup>言<sup>言</sup>重<sup>重</sup>複<sup>複</sup>也<sup>也</sup>詩<sup>詩</sup>經<sup>經</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup>

拔<sup>拔</sup>河<sup>河</sup>之<sup>之</sup>戲<sup>戲</sup> 今<sup>今</sup>又<sup>又</sup>預<sup>預</sup>引<sup>引</sup>之<sup>之</sup>留<sup>留</sup>青<sup>青</sup>日<sup>日</sup>札<sup>札</sup>に<sup>に</sup>あり<sup>り</sup>

**正誤** 踵<sup>踵</sup> <sup>ハ誤</sup> 霍<sup>霍</sup>乱<sup>乱</sup> <sup>ハ誤</sup> 櫛<sup>櫛</sup> <sup>ハ誤</sup> 關<sup>關</sup>白<sup>白</sup> <sup>ハ誤</sup>

諺草卷之四終

諺草卷之五

也 第二十七

**諺** 柳<sup>柳</sup>の枝<sup>枝</sup>は<sup>は</sup>雪<sup>雪</sup>か<sup>か</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup> 淮南子<sup>淮南子</sup>曰<sup>曰</sup>木<sup>木</sup>強<sup>強</sup>則<sup>則</sup>折<sup>折</sup>草<sup>草</sup>固<sup>固</sup>

則<sup>則</sup>裂<sup>裂</sup>齒<sup>齒</sup>堅<sup>堅</sup>於<sup>於</sup>舌<sup>舌</sup>而<sup>而</sup>先<sup>先</sup>之<sup>之</sup>敵<sup>敵</sup>口<sup>口</sup>義<sup>義</sup>云<sup>云</sup>木<sup>木</sup>強<sup>強</sup>則<sup>則</sup>折<sup>折</sup>如<sup>如</sup>藤<sup>藤</sup>如<sup>如</sup>柳<sup>柳</sup>

則<sup>則</sup>難<sup>難</sup>折<sup>折</sup>云<sup>云</sup>

闇<sup>闇</sup>夜<sup>夜</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>き<sup>き</sup> 無<sup>無</sup>用<sup>用</sup>の<sup>の</sup>本<sup>本</sup>の<sup>の</sup>吟<sup>吟</sup>なり<sup>り</sup>漢<sup>漢</sup>書<sup>書</sup>云<sup>云</sup>富<sup>富</sup>貴<sup>貴</sup>

不<sup>不</sup>歸<sup>歸</sup>故<sup>故</sup>鄉<sup>郷</sup>如<sup>如</sup>衣<sup>衣</sup>錦<sup>錦</sup>夜<sup>夜</sup>行<sup>行</sup>糠<sup>糠</sup>武<sup>武</sup>書<sup>書</sup>語<sup>語</sup>曰<sup>曰</sup>夜<sup>夜</sup>行<sup>行</sup>被<sup>被</sup>繡<sup>繡</sup>不<sup>不</sup>足<sup>足</sup>

為<sup>為</sup>榮<sup>榮</sup> <sup>又<sup>又</sup>古<sup>古</sup>の<sup>の</sup>字<sup>字</sup>に<sup>に</sup>部<sup>部</sup>に<sup>に</sup>新<sup>新</sup>考<sup>考</sup></sup> 貫<sup>貫</sup>之<sup>之</sup>

える<sup>える</sup>人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>山<sup>山</sup>の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>き<sup>き</sup>なり<sup>り</sup>

病<sup>病</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>醫<sup>醫</sup>を<sup>を</sup>志<sup>志</sup>す 說<sup>說</sup>苑<sup>苑</sup>曰<sup>曰</sup>病<sup>病</sup>加<sup>加</sup>於<sup>於</sup>少<sup>少</sup>愈<sup>愈</sup>是<sup>是</sup>疾<sup>疾</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

養<sup>養</sup>由<sup>由</sup>一<sup>一</sup>考<sup>考</sup>なり<sup>り</sup> 淮<sup>淮</sup>南<sup>南</sup>子<sup>子</sup>曰<sup>曰</sup>養<sup>養</sup>由<sup>由</sup>基<sup>基</sup>楚<sup>楚</sup>將<sup>將</sup>善<sup>善</sup>射<sup>射</sup>公<sup>公</sup>楊<sup>楊</sup>葉<sup>葉</sup>

百<sup>百</sup>步<sup>步</sup>射<sup>射</sup>之<sup>之</sup>百<sup>百</sup>發<sup>發</sup>百<sup>百</sup>中<sup>中</sup>楚<sup>楚</sup>恭<sup>恭</sup>王<sup>王</sup>獵<sup>獵</sup>見<sup>見</sup>百<sup>百</sup>猿<sup>猿</sup>遠<sup>遠</sup>避<sup>避</sup>箭<sup>箭</sup>王<sup>王</sup>命<sup>命</sup>由<sup>由</sup>

基<sup>基</sup>射<sup>射</sup>之<sup>之</sup>由<sup>由</sup>基<sup>基</sup>始<sup>始</sup>調<sup>調</sup>弓<sup>弓</sup>矯<sup>矯</sup>矢<sup>矢</sup>未<sup>未</sup>發<sup>發</sup>乃<sup>乃</sup>抱<sup>抱</sup>樹<sup>樹</sup>而<sup>而</sup>號<sup>號</sup>俗<sup>俗</sup>疾<sup>疾</sup>の<sup>の</sup>紀<sup>紀</sup>

う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>なり<sup>り</sup>射<sup>射</sup>の<sup>の</sup>本<sup>本</sup>と<sup>と</sup>云<sup>云</sup>ハ

却て笑と云ふの媒也世の人曲藝小技ありて格致納と借  
て流の乃河幸と云くは謀る由と對してらと云くは類なり  
**俗語** 約束 史記曹參世家より。漢書高帝紀註約束  
也。謂言契也。小補韻會曰。言語要結。戒令檢束。皆曰約束。  
約又音要。束又音遇。切字義同。約束とハ。詞を以て互よる  
アと云ふと云くはさむるさあり。今の詞もとあり

良父 史記韓信傳より。又後漢書張湛傳良久歎  
息註良猶甚也

野心 左傳昭公二十八年傳云。狼子野心。文選丘希範  
書北狄野心註。翰曰。野心謂如野獸之心。豺狼の人の  
訓より。人の君より背て。豺狼の心あること也。地んと云り  
寡 小尔雅云。凡無妻無夫。通謂之寡。今俗妻あると夫と  
寡と云ふ。又改あることあり

様 廣韻式様。今俗に鄙様系様など云ふ有り。わろ  
うといひ詞あり。元和様宮様など云ふ也。俗に様と云ふ

役夫 左氏文公傳。汙芋怒曰。呼役夫。註賤者之稱  
瘦 骨 莊子の出たり

夫木 山教よせと云ふるむさく  
とひふふと云くは門人と云ふ  
俊頼

瘦通 款  
新續古  
大和のりとしかしの意をれし  
やと云うゆるものもそなける

之瘦と云ふと云くハ。八咫と云うよして改るもの有り

羅 文選班叔皮王命論より  
約 字彙諾承領之辭也。又以言許人曰諾。いひらる

とよめり

無藥袋ナシヤクタイモ 或説ケイカ。荆軻が秦始皇を刺んとせし時群臣の  
殿テン下り約ヨク者ハ秦法シより寸の兵ヒも持た  
せんすべからず侍シ隨シ身無且カ其持カ下シの茶囊チヤノと以て  
荆軻に投ナりて其奉ホウ史記シキよくとすべし。身無且カ茶  
袋チヤノもあらんハ。一向ヒトナリとてシすべし。其下シの  
の詮シつとすべし。茶袋チヤノもかシしり。索命ソクメイの説シよ

**正誤** 矢張ヤチヤウ トキナキト云事トヤスルト云ヤラズト云事ト 流鑄リウサウ  
ヤクナクヤク 灸キウ ヤクナクヤク 瘦シウ ヤクナクヤク

末 第二十八

**諺** 盲龜メイキウの浮木ウキ 法華經佛難得值ホフワキョウブツトク如優曇波羅華ユウタンハラハ又

如一眼之龜ニツメノキメ值浮木ニツメウキ孔クハ材サイ注チュウとくトク又涅槃經ニハツキョウ

曲マカらカ祿リクハ世セにニまマせセ 世説曰セセツ王オウ充チュウ祿リク如屏風オウ屈曲クツクツ從

時トキ種タネハ生ナぬ 山谷サンヤク頤イ軒ケン詩曰シ涇流キヤウリウ不濁フタク滑クワ種タネ桃トウ無ム李リ

實シヤク註チュウ俗諺曰種李タネリ不成ナラズ桃トウ種タネ木キ不生ナラズ豆マメ 漢書宣帝ケンテイ其露

三年二月サンネンニゲツ單于サンヤク罷歸ヒカエリ又高祖コウソ紀キ兵皆ヒ罷歸ヒカエリ家ケ礼記レイキ少儀

曰罷ヒカ以其疲故也ヒカヒカヘキコト是コト以テ見ル之ヲ 漢書宣帝ケンテイ其露

半一やこれとびり...  
今私の字と用ひたり。返の字と用ひばあや  
まらふ所...  
今私の字と用ひたり

萬劫 標嚴經。普爾生情。萬劫羅鎖。

萬分一 莊子云。其存之國也。無萬分之一。

每每 莊子胠篋篇。天下每每大亂。註。每每常常也。

博 以手圍物也。禮記云。勿博飯。

枚 枚良材也。云々。來れ字とかく

古今 今 秋や... 人...

枚 韻會曰。說文徐曰。條自枝而出也。枚自條而出也。枝

曰條。幹曰枚。王氏曰。凡數物曰枚。數事曰條。俗小紙草

此類と二枚三枚と云ハ物と枚るなり。ト云法度と條

條と云ハ率と云々也。語林。王右軍為會稽。庫中有篋。篋紙九萬枚。又珠十枚と云々。史記魏世家。木末十枚。と云々。貨殖傳。桃七枚と云々。款府あり。款書。一枚二枚

と。ひとびりニひりとも。日本紀。神武紀。八十枚

と何れ也。此名の枚方枚。枚をいふと枚の字なり。今誤

て枚の字と用ひ

參 廣韻。觀也。日本紀。遠自來參。禪家ハ徳人と

何れめく。宗小と云。參と云。是也。凡俗俗おまじい

と云と云々

申 居家必用。申伸也。明也。謂所告諄切。

迄 至の義也。

隨意 万葉集。凡列有り。まらまらる也。中華此詩も。

隨意 殘花寂寞。開庭。無以隨意。緑木此句多し。

儘 五侯鯖字海。第七卷。盡字部。有儘字。註云。音儘。

可有也。頗也。詩格註。極也。皆也。字彙。與盡同。又小

神韻會書字註極也。又皆也。一云任也。縱令也。  
 每事 論語子入太廟每事問  
 日本紀の訓なり  
 藻怪草又訓なり。人とりくるなり。以不賄  
 の字を有るハ此なり

正諺 棧物マカモノ 斗格ハシゲ 松脂マツヤニ 湔濟マキヤス 羞明ハバユシ 眞向マコウ 跨カス  
ハ誤 ハ誤 ハ誤 ハ誤 ハ誤 ハ誤 ハ誤

諺

計第二十九

毛テ吹フて疵キズと求モトム 漢書武帝紀推抑諸侯王奏其  
 過惡吹毛求疵應劭曰求索多端曰吹毛求疵劉子  
 新論傷讒篇洗垢求痕吹毛覓瑕新考

好キ 毛モと吹フて疵キズと求モトム 漢書武帝紀推抑諸侯王奏其  
 過惡吹毛求疵應劭曰求索多端曰吹毛求疵劉子  
 新論傷讒篇洗垢求痕吹毛覓瑕新考

藝ゲイハ身ミとなさるる 韓退之進學解云名一藝者無

不庸フユウ之世活セのきよ目メ 事文類聚云淮南王安臨仙公餘藥

獸雲ベツクモハ不フゆる 在鼎中雞犬舐シ之並得飛昇トビノボル故雞鳴雲中犬吠天

刑鞭蒲朽ケイベンボウク 小野國風詩刑鞭蒲朽ケイベンボウク 螢空ホタルソラ公諫鼓苔

深鳥不驚フカトリノトビ之ハ劉寬リウケンが蒲鞭ボウベンの於本ココロと有アてシるル

或云大江朝綱詩也

けし人の上明日は我身此上。悪源太義平。死に臨て。平家の

すよあしそまうり得るなり。平家物語

新考 けし人とのあふるいしとていふてそ

りふのあふれはけし人のあふると

加賀のあふ

碩鼠才 伊の字の部。石田瓶の條に「くし」

螢雪の功とつむ 檀道鸞晋陽春秋云。車胤字武子。

學而不倦。貧而不常得油。夏月則練囊盛數十螢

火以夜繼日焉。孫氏世錄云。孫康家貧無油。常映

雪讀書。これ二人のあふりようて。勤苦して學問するを

螢雪の功とつむと云ふ。けしなり

けしあふり 人のあふりよ及く我齡のあふりよと云ふ。新考

繁人のあふりよと云ふ。けしなり。けしなり。新考

俗語 權輿 詩經秦風。權輿篇あり。朱子註云。權輿始

也。華谷嚴氏曰。造衡自權始。作車自輿始。今俗よ。權も

誼譯 文選左太冲蜀都賦。誼譯。鼎沸とあり。その物の

かへきまう。さるのいよ。今俗よ。冠争するを。誼譯と云ふ。物

いあふりよ。いあふりよ。いあふりよ。

權柄 前漢書劉向傳。大臣操權柄。持國政。權ハ秤の錘

也。柄ハ斧の柄也。考史記。いあふりよ。いあふりよ。いあふりよ。

逆鱗 天子の怒を逆鱗と云ふ。今俗よ。平人のあふりよ。逆

鱗と云ふ。いあふりよ。韓非子曰。夫龍之為蟲也。可

擾狎而騎也。然其候下有逆鱗。徑尺人有嬰之。則必

殺人。人生亦有逆鱗。説之者能無嬰。人生之逆鱗。則

幾ハ矢

漢書高祖紀。よあふりよ。いあふりよ。いあふりよ。

澆季 文選任彦升。王文憲集序。百王澆季。註。木子

周翰曰。謂末世浮薄也。



業業

詩經より。註云。業業大也。俗は物の多きをいふ

下子

枕草子より。すきく〜ん下子をいふあり

下

下はさしもの半を云

下

下はさしもの半を云。せ〜うありぬし。

下

下は常よりあり。不下智と書。下より〜ありぬ

教訓

詩經既醉篇より。又曲礼云。教訓正俗

非礼不備

又曲礼云。非礼不備。又曲礼云。教訓正俗

嚴密

後漢書馬援傳。援戒其子姪曰。效杜季良不

之北

後漢書馬援傳。援戒其子姪曰。效杜季良不

儉約

儉約の字。神注より。かげく〜二字つ〜てハ

輕薄

史記龔遂傳。遂為渤海太守。躬率以儉約。後漢書馬援傳。援戒其子姪曰。效杜季良不

得陷為天下輕薄。子杜子美。貧交行。紛紛輕薄何須數。今俗。威儀。〜〜〜志と收為

族

使伏聲。左傳云。公族。夫族。馬。史記始皇本紀より。杜子美詩。兄將富

下

史記灌夫傳。夫稠人廣眾。存寵下。下。史記灌夫傳。夫稠人廣眾。存寵下。下。史記灌夫傳。夫稠人廣眾。存寵下。下。

嚴重

後漢袁安傳。為人嚴重。有威。後漢袁安傳。為人嚴重。有威。後漢袁安傳。為人嚴重。有威。

堅強

孔子云。天下柔弱莫過于水。而攻堅強者莫。孔子云。天下柔弱莫過于水。而攻堅強者莫。孔子云。天下柔弱莫過于水。而攻堅強者莫。

下

法華經云。志意下方。此字。書經堯典より。俗より。海智あると。

學曰此本以之。有れを今云俗語も同し。

慳貪 法華經云衆生垢重慳貪嫉妬

化生 莊子曰已化生又化死

野槌云。製ハなれ。暗ハ法礼の多る。

私公と云。常。私。詩經葛覃朱傳私燕服也。衣

礼服也。私とけのころと云。衣とこれな。

韻會云。說文。製。私服。又衣の被る。製と

製と云。衣服。公界と暗と云。私と製と

職原抄。暗時雖下膳著之。

野槌曰。日本紀。形勢とけり。ひとよあり。新

撰樂記。累就と云。

恠瑕 修。思。没。疾と祔と云。

見解 字彙云。解釋也。曉也。道理とえて。さし。不と見

解と云。鶴林玉露云。曾點之見解。顔子之工夫。

家礼 下学集。家来ハ家人の家也。親房卿。織原抄。

家礼の字と用。能。解。信。曰。家礼と云ハ。子の父と

好。あり。り。地。人。能。子。能。礼と云。記

今の書。も。家礼と云。又。家令と云。書。一。史記

高祖紀。大公家令。說。大公云。是。家人のる。

飢渴 田令。氏。氏。氏。本とけ。の。云。ハ

字。り。創。渴。の。字。ハ。孟子。出。

格上 通鑑宋武帝記。馳使格上。

結構 文選。靈光殿賦。觀其結構。規矩。應天。註。善曰。高

誘。呂氏春秋。註曰。結。交也。構。架也。構。の。字。手。に。ハ。此

なり。結構と云。ハ。今。俗。の。次。事

と、後集と云ふのや、まうあり。後集のよきありきと云ふ。

懈怠 類書纂要懈懶也。怠倦也。怠不敬。菩薩本行經

云。夫懈怠者衆行之累。

見在 史記齊悼惠王世家於今見在文選劉子駁文

今其書見在

馬 史記秦二世紀趙高欲為亂恐群臣不聽乃先設

驗持鹿獻于二世言馬也今俗語のありと云ふ字あり

疑 楚辭云聖人不疑滯於物能與世推移

權門 文選陳孔璋檄云輸貨權門註濟曰權勢也

檢見 俗。秋農監の人年の上下とて欽法と定むる

掌巡邦野之稼而辨種稔之種周知其名與其所

宜也以為法而縣于邑閭巡野觀稼以年之上下出欽法

掌均萬民食而調其給而平其興

顯證 居家必用曰顯證謂知見爭端之人也又陳道云左

旁知狀謂之見證今と鞠あるの時旁より見る人

外道 釈氏佛書と内典と佛書と外典と

改て内典と佛書と外典と佛書の外とて扱て外典と号す

白りて人の私をよりぬく箇巻は見事也忌憎事と

邪説と云ふ。楊維禎ハ釈氏とて外典と云ふは誠と云

下此公言也

險阻 左傳僖公傳云險阻艱難備嘗之矣朱子曰險與阻

不同險是自上視下阻是目下觀上又韻書ハ山の巖を險

と云水の隔ると阻と云若ひくくも山水皆通利す

大行の路。巫峽の水も。人心の反覆の中より。人の心は

藝ゲイ 韻會云。藝種也。又才能也。漢書註師古云。六經而謂之

六藝。藝猶種也。學者用功於六經。猶農者用功於種藝。技

能ノビと氣キとも。農夫の力を養ふ。猶小治法するの如し。

俗ソクふと多くひひりてゆく。俗句と云。約の結句

兼約ケンヤク 文選東征賦。無怠思兼約。

決定ケツテイ 圓覺經云。生決定信。

正論テイロン 雞頭花ケイトウ 懸魚ケンギョ 玄關ケンカン 結句ケツク

怪ケ 瑕カ 過カ 怪ケ 貪ケン 疾ケ 癢ケ 無ケ 懸ケ 念ケ

痛イタとけんへ。肩カ痛イタこ。男オトの痛イタハ。肩カ痛イタこ。人ヒトももろくハ誤アヤマ

不フ 第三十

諺コトワザ 舟フネとささむ 呂氏春秋曰。楚人劍自舟中墜水。遽

契ケツ其舟曰。是吾劍所從墜也。舟已行而劍不行。不亦

惑マヨイ乎

普天フテンの下ノ率シツ土ノの濱ハマ 詩經北山篇云。溥フ天ノ之下ノ莫ナシ非ズ

王オウ土ノ率シツ土ノ之ノ濱ハマ 莫ナシ非ズ王オウ臣ノ 勅トク

論語曰。温ユル故ヲ而シテ知ル新ヲ

可以カニ為ル師ト矣

蟛ヘンの一期イチキ 世セのノ事コトにシテ吟ウタてル 大戴禮夏小

正テイ曰ク蟛ヘン朝アサ生ナ而シテ暮ユフ死ス 爾雅云。蟛ヘン渠カ畧カ郭璞註云。

似ニ蛞カ蟻アリ身ミ狹セ而シテ長ナ 有リ角ツノ叢クサ生ナ糞クソ土ノ中ニ 朝アサ生ナ夕ユフ死ス 陸リク達ダツ

疏ス曰ク通ツウ謂フ之ヲ渠カ畧カ似ニ田タ蟲ムシ 有リ角ツノ大オホ如ク指サシ 長ナ三サン四シ寸スン 甲カウ

下シタ有リ翅テ能ク飛ト 夏ナツ月ツキ陰カゲ雨アメ地チ中ニ出デ 白シロ樂ラク天テン詩シ云ク長ナ生シ

無ナシ得ズ者ヲ舉テ世ニ如ク蟛ヘン

佛種從緣起

法華經方便品疏偈也

俗語

粉骨

文體明辨二十九卷

唐草臯與將士嬰

曰粉骨糜軀決無所顧今切字何と粉骨を糜と云

粉骨と云て云る

分別

法華經云思量分別之所能解

不肖

中庸云夫婦之不肖可以能行焉前漢書武

帝紀云所任不肖師古曰肖似也

不肖者言無所象類謂不才之人也

文選四十一不肖之才力註

云不肖謂不才也善云禮記云某之子不肖應劭

風俗通云生子不似父母曰不肖今も力の人よ云る

さる事と不肖と云也

觸

俗よ人くに行て事と告ると觸と云觸狀觸事なりと云

そ也云るれ觸ハ突犯の義と云行示のさ義と云る

行示のると觸と云るは徇と云る徇字史記よ出り

漢書高祖紀註師古云徇行示也司馬法曰斬以徇

言使人將行徇示衆士以為戒書礼正每歲通人以木鐸徇于道

漢書惠帝紀よ出り註武士力士也

漢書高后紀よ出り

古事紀北訓也

不祥の字ハ老子經よ出り

左傳桓公五年傳よ出り

史記張儀傳四通輻輳前漢書賈誼傳輻輳並

進小補韻會云輻輳競聚

詩經よ出り

志の字部よ詳也

國語周語よ出り

普請の字三國志呂蒙傳よ出り

家造ると普請と云ハ沙門の造り普請と云人と云る也

多力と云て事と云る也

教修清規云普請之法蓋上上均力也分付

堂司行者。報衆掛普請牌。仍用小片紙書。貼牌上云。某時某處。不快氣。輟耕錄第十一云。世謂有疾曰不快。陳壽作華佗傳亦

然俗小病何事。不快氣。晉祖述傳。晉過江人士。新亭飲宴。周顛嘆曰。風景

殊不殊。擊自有山河之異。易繫辭云。富有之謂大業。

浮沈。史記游侠傳云。豈若早論齊俗。與世浮沈。而取榮

不斷。漢書元帝贊云。優游不斷。是決以沈乎。米と云。

風聽。國語晉語。風聽臚言於市。註風來也。あり臚言ハ

扶持。内則。出。又孟子云。疾病相扶持。

史記高祖紀。多以金啗將。同解之也。

詩經七月篇云。載績武功。左氏僖公傳。不穀不德。得罪于母。

東坡詩。消磨未盡。只風情。下學集云。文莫無智之義也。今按述而篇子曰。

文莫吾猶人也。何晏集解。莫無也。文無者。凡言文皆

不勝於人。文莫之義。古注のさなり。

字彙云。庶人往役曰失。往役とハ公役のつれと云。る。

無骨。浮公。小骨。骨と云。骨の字ハ。骨の字ハ。骨の字ハ。

廉公若西體之無骨。骨の字ハ。骨の字ハ。骨の字ハ。

字書。甄豔散毛貌。甄豔の字ハ。甄豔の字ハ。甄豔の字ハ。

甄豔。甄豔の字ハ。甄豔の字ハ。甄豔の字ハ。

くさじとま。海に紅紫のうら。くさじとま。くさじとま。

少くも。又幼少くも。少くも。くさじとま。くさじとま。

韻會舉之也。動也。今振舞ふ。くさじとま。くさじとま。

封袋。物と封。くさじとま。くさじとま。くさじとま。

宋書伯玉傳。温雅有風味。封袋とくさじとま。

漢書趙充國傳。世とのれ。封袋とくさじとま。

清涼の凡。各條流あり。と風流とくさじとま。

乃。或輕俊。十年とくさじとま。くさじとま。

士とた。れとくさじとま。くさじとま。

柏子物と。くさじとま。くさじとま。

不道。左傳成公十五年。傳とくさじとま。

無道。論語。出。くさじとま。

分明。漢書薛宣傳。出。くさじとま。

使知清白也

漢書儒林傳。出。くさじとま。

無朝榜。埃囊抄。云。六條。内府有房卿。説。曰。上古ハ。

蔣繪銅細工等。皆朝家より。被。不。不堪。之者。之。彼。榜。

取。世。非。細。工。之。朝。榜。と。云。り。榜。し。被。

困學記聞。云。出。魏。程。曉。上。疏。

孝經。云。移。風。易。俗。莫。善。於。樂。兵。臨。川。曰。風。者。上。

之。化。所。及。俗。者。下。之。習。所。成。漢。書。地。理。志。云。人。有。剛。

柔。緩。急。者。聲。不。同。繫。水。土。之。風。氣。故。謂。之。風。好。惡。取。

舍。動。靜。嗜。欲。故。謂。之。俗。

風。聞。文。選。沈。休。文。奏。彈。王。源。云。風。聞。註。善。曰。漢。書。尉。

佗。曰。風。聞。老。夫。父。母。墓。已。壞。削。賈。逵。國。語。註。曰。風。采。

也。采。聽。商。旅。之。言。也。此。注。の。如。く。か。れ。た。風。采。と。云。い。こ。ま。

山谷集註。風流。字。或。美。或。惡。隨。所。用。之。意。何。如。耳。

註師古云。分明。謂。考。問。

無雙フサウ 東方朔答客難云海内無雙此外天下無雙

風儀フウギ 國士無雙殿中無雙江表無雙等の語史漢シカン多し

不敵フテキ 王仲寶褚淵碑文云風儀與秋月齊明フキツキ

不性フセイ 史記高祖本紀力不敵リキツ 佛家ブツの作用是性セイとすモウキ

都ト 周禮春官大司樂諷誦註背文曰諷フウ以聲シヤウ節セツ之曰誦ソウ

不圖フト 漢書王商傳シヤウの註シュ師古云蹂踐也ソウセン躡ソウ也セン

不意フイ 神代卷の訓クニ 論語不圖フト為樂ガク之ノ至於斯ニ

不審フシ 史記荊軻傳キヤク卒ス紀キ不意フイ盡失其度クニ

正誤テイゴ 宋史ソウシ臣下シヤ奉行フコウ 韓詩外傳カンシ外傳ゲイの出デ

風毒腫フドクシュウ 文運ブンウン 福祿壽フクロクジユ 禪ゼン 跋扈ハツコ

風聽フウテイ 薰籠クワンロウ 施セ 禪ゼン

風聽フウテイ 薰籠クワンロウ 施セ 禪ゼン

風聽フウテイ 薰籠クワンロウ 施セ 禪ゼン

風聽フウテイ 薰籠クワンロウ 施セ 禪ゼン



諺 子ゆの闇ヤミ小コすよヨ 大學云諺有之曰人莫知其

子之惡ヲ 新考 之諺ノ 心ニ 同シ 歎ム

培ツキ 人の親ノ の心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト

子ノ 心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト

琥珀コハク 塵チリ とシ 下ニ 穢ス ちとシ 吸ス 磁石ジシキ 針ハリ とシ 人ノ 曲マ ちとシ 吸ス

三國志云琥珀不取腐芥磁石不受曲針

柱ツチ 膠カウ 之ヲ 史記ニ 蕭相如ノ 云ク 王ヲ 以テ 若シ 使シ 括ケ 若シ 膠ヲ 柱ニ 而シ 鼓ス

琴耳コト 括ケ 能ク 讀ム 其ノ 父ノ 書ヲ 傳ヘ 不知シ 合シ 變ス 也

薛セツ 多タ 品ヒ 少シ 源氏ノ 河海抄ニ 薛セツ 多タ 品ヒ 少シ 源氏ノ 河海抄ニ 薛セツ 多タ 品ヒ 少シ

威儀ノ 不レ 仰ル 易大傳云吉人之辭寡躁人之辭多

聲ノ 不レ 聞ク 人ノ 呼ブ 史記ニ 李廣傳ニ 桃李不言ニ 下ニ 自成シ 蹊ヲ 是レ 道也

あハ 人ノ 心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト

故郷ノ 忘ル 難シ 檀弓曰君子樂樂其所生礼不

忘ル 其ノ 本也 古ノ 人ノ 有リ 言ハ 批シ 死ニ 正シ 丘ノ 首ニ 仁也 讀ム 心ニ 同シ

氷ノ 鑿メ 水ノ 畫ス 山谷詩鑿氷文章費工巧註鹽鐵

論曰内無其慎而外學其文若畫脂鏤水費日損功

氷ノ 水ノ より 出テ 水ノ より 寒シ

荀子曰學不可已青

出テ 於テ 藍ニ 而シ 青シ 於テ 藍ニ 氷ノ 生ル 於テ 水ニ 寒シ 於テ 水ニ 新考

胡馬ノ 北風ノ 依ル 文選二十九古詩云胡馬依

北風越鳥巢南枝之ハ 胡馬ノ 依ル 北風ノ 越鳥ノ 巢ル 南枝ノ 之ハ 胡馬ノ 依ル 北風ノ 越鳥ノ 巢ル 南枝ノ 之ハ

とシ 子ノ 心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト 子ノ 心ニ 寄ル けりト

胡椒コウ 丸マ 朱子曰大凡讀書須是熟讀熟讀了自精

熟精熟後理自見得如喫果子一般劈頭方咬開未

熟精熟後理自見得如喫果子一般劈頭方咬開未

熟精熟後理自見得如喫果子一般劈頭方咬開未

熟精熟後理自見得如喫果子一般劈頭方咬開未

見滋味便喫了。復是細嚼教爛。則滋味自出。方始識得這箇是甜。是苦。是辛。始為知味。語類。乞果と喫す

言語道斷。法華經。朱子陸象山の事と稱し。

故郷人錦とくさる。史記項羽本紀云。項羽曰。富貴

不歸故郷如衣繡。夜行誰知之者。漢書繡作錦。師古

曰。無人見。之不榮顯矣。後漢景丹傳亦有此語。南史

劉之遊傳。令卿衣錦還郷。又唐魏元忠傳。有衣錦畫

遊之語。新考。

境

云願作心師。不師於心。新考。

有情以衆生妄業力。故見之。佛ハ演説有り。地獄也。

天亦も鬼も他者も。皆そつんのらお也。

知周之夢為蝴蝶。蝴蝶之夢為周。新考。

力。名。げ。て。も。区。く。ま。の。道。老子經云。功成名遂

身退。天之道。新考。

批狼野干。四字連續。法華經に於り。野干と批と同

批狼野干ハ形小尾大也。批ハ形大也。

按建武年  
書經出  
洪範名  
疑擇建  
ト案八

本ノ事ヲ祖庭事苑云野于梵云悉如羅

又名夜于或名射于聲如根

俗語

建立

沈字曰沈音治也。入漢書郊祀志云建立

杜撰

故實

國語のゆかり。註韋昭云故實故事之是者

入骨體

史記秦本紀に於り

故先

困學記聞云出書無逸註

事託

事託之傳也。沈とてと事沈といふ

言傳

沈之傳也。一ト云くハ文選高唐賦傳言

傍

羽獵魏文帝與鍾大理書傳言未審そと沈の邊

之ト云ハ傍也。字彙云進舟也。沈といふ

このけいけいけいけいけいけいけいけいけいけい

混雜

又こころこころこころこころこころこころこころこころ

沈沈としてト云へり

子本

賦と傍ト云ハ韓文柳氏墓誌にあり

後悔

詩經江有汜云之子于歸不我以其後也悔

巨細

張茂先鷓鴣賦巨細舛錯朱子大學序云詳畧

相因巨細畢舉

今朝

詩經白駒篇云以永今朝

困窮

書經舜典云四海困窮天祿永終

勉旃

漢書楊惲傳ト云。師古云旃之也

故迹

唐太宗詩沈沙無故迹

狐疑

楚辭猶豫而狐疑了韻府曰述征記河水合

須狐聽而行又漢書文帝紀註師古云狐之為獸

其性多疑。每渡冰河且聽且渡。故言疑者而稱狐疑。

今ト序の初、地は信と疑本と云ふ事と云。狐疑の字也。

牛角 均のち垂く、修方と云事と牛角と云。法華經譬

喻品首如牛頭。科註に、奴見より修くも云と云。

又ト牛の角のあきけり。牛角と云事と云。此の字也。

去ト歴 梵書以一世為一奴。修ト奴ト歴ト云ハ

世ト歴ト入春の初、奴ト云ハ、此の字也。韻會曰

説文、奴人欲去、以力脅止曰奴。人のつとむと云

の、つとむと云事と云。奴ト云ハ、此の字也。

無越 河本傷心と云事と云。此の字也。此の字也。

河本傷心と云事と云。此の字也。此の字也。

河本傷心と云事と云。此の字也。此の字也。

沽却 却ハつりま事と云。此の字也。此の字也。

却ハつりま事と云。此の字也。此の字也。

却ハつりま事と云。此の字也。此の字也。

興行 潘元茂九錫文、俾民興行。

扈從 司馬長卿上林賦云、扈從橫行。師古云、扈從

隨侍之義。又留青曰、札云、言隨從天子、逐獸橫行也。

御前 蔡邕獨斷云、天子所在曰御前。今俗、亦

修ト云事と云。此の字也。此の字也。

修ト云事と云。此の字也。此の字也。

修ト云事と云。此の字也。此の字也。

修ト云事と云。此の字也。此の字也。

虎口 莊子盜跖篇、孔子曰、疾走料虎頭、編虎鬚、幾不脫虎口。

哉、今俗、先場、源と云事と云。又軍墨と云事と云。

口才 世説云、大奴廣長口才。

滑稽 下學集に滑稽ハ利口の義也。史記樗里子

傳、滑稽者多智。索隱云、滑稽音骨。替音雞。鄒誕解曰、滑

乱也。替同也。謂辨捷之人言非若是言是若非謂能  
乱同異也。又崔浩ハ酒器也。註。姚察ハ俳諧の友  
也。史記有之。詳也。元古因之。以。産

黒餅クワ 青箱記云晝寝為黒餅クワ 東坡詩云三杯軟飽後

一枕黒餅餘クワ 寝鼻息のうさよと云東坡詩鼻息齁齁自成曲

陸宣公集難違銀心志志 朱子文集以後使後

間者帝紀 西者漢書昭乃者 漢書成 近者曹子建 頃

凌コヌ 字彙云水調粉麪也

正論

是許コレハカリ 是程コレハカリ 無虛ナシ 混雜コミ

是奴コレハカリ 是奴コレハカリ 御料ミヨウリョウ 人ヒト 牛ウシ 強敵キョウテツ

諺

猿猴が月とらる 愚人のわらわらするをの分よ  
夕の事とて却て己が過とらるるなり。僧祇律云。  
佛告諸比丘。過去世時。波羅奈城有五百樹。猴見樹下  
有井。井中見月。共執樹枝。手尾相接。入井取月。枝折。一  
齊死。このを諺とす。

笑の中の歎

唐書云。李義府貌足恭。與人言。嬉怡微笑。  
而陰賊褊忌。著于心。凡忤其意者。皆中傷。之時。號義

甫笑中有刃。語これより。新考

奈倫を言ひくも。よほど。なを。なを。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

口の。これ。を。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

枝と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

鋤刀一割 此語後漢書より出たり。又文選左大冲詠史

詩。鋤刀貴一割。註。東觀漢記。班超上疏曰。臣乘

聖漢威神。冀倣鋤刀一割之用。註。濟曰。以鋤為

刀。只可一割。不可再用。

俗語

縁起 神は神と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

佛加經第二。佛說縁起。あり。梁任昉文章縁起

一卷と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

韓文。民皆悦喜。漢書。皇天說喜。

悦喜

遠慮 論語云。人無遠慮。必有近憂。

遠慮

榮西

此。と。同。建。久。二。年。四。月。定。り。ゆ。く。浮。宗。と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

平政。湯。金。の。み。ゆ。も。と。て。あ。り。ひ。日。建。久。二。年。三。月。建

仁。ら。ぬ。も。と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

村。本。と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

村。本。と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。

村。本。と。い。ふ。も。よ。ほど。な。を。な。を。し。か。あ。や。い。う。こ。し。



何也。密曰。暮夜無知者。震曰。天知神知。子知我知。何謂

無知。密愧而公。民族排韻大全。天知地知子知。我知。俗語。天知地知子知。

負女兩夫。王歎曰。忠臣不事二君。

負女不更二夫。王歎。事。說苑。忠臣不事二君。

鳥雀枝の深。鳥雀聚枝深。新考。

鄭家此奴。詩。事。文類聚後集云。鄭玄家奴。

婢皆讀書。一婢不稱意。使人搜著泥中。復史。一婢

來問曰。胡為乎泥中。詩經。邶風。式微。篇。答云。薄言往愬。逢

彼之怒。柏舟。篇。後。鄭玄。後漢。之。傳。

不若の書。老子經の文なり。

天長地久。老子經の文なり。

**俗語** 丁寧。漢書谷永傳云。以丁寧陛下。師古云。

丁寧。謂再三告示也。字彙云。丁寧。屬付諄複也。

周伯溫曰。俗作丁寧。非。杜子美詩云。驚語太丁寧。

寧。邵康節丁寧吟云。人無忽畧。事貴丁寧。忽

畧。近薄丁寧。近誠。

天罰。書經。秦誓云。恭行天罰。

手。後漢書。郊祀志。天子識其手。

註。師古云。手。謂所書手跡也。云々。

觀面。儀禮。聘禮。於君謂之觀。於卿謂之面。爾雅釋

詁。觀見也。疏云。觀。剋觀。皆下見上也。今。云々。

頂戴。法華經。云々。

天魔外道。佛經。天魔外道。恐怖毛豎。

天性。漢書賈誼傳。少成若天性。又俗。天性自然。

云々。又。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

云々。又。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

云々。又。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

云々。又。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。



連柝丁。王子淵洞簫賦因天性之自然。

天然 漢書谷永傳云陛下天然之性

天變 漢書劉向傳天變見于上

調度 野樵云調度之鳥也子思之也云云

此一切のものは其の如く云ふべし

之の法は其の如く云ふべし

之の法は其の如く云ふべし

打擲 字書打撃也擲抛也法華經衆人或以杖木瓦石而

打擲之杖木瓦石也

條 韻會云說文條小枝也師古曰凡言條者一一而疏

舉之若木條焉一一事と云ふ

小枝の如く云ふべし

柝 韻會曰說文柝一枚也徐曰柝獨也柝然勁直之

貌集韻木片也今墨蠟など柝の如く云

者 中華俗語称此箇為者箇称此裏為者裏並以

不あるは辞なり又改用這字祖庭事苑曰這當作者指

事之辞也修者しこと事と云ふの辞なり

之れいしことと云ふべし

の字と云ふべし

出葉 卜部兼俱神代卷抄云てうしことと云ふべし

けいけいのふけのちしことと云ふべし

の字と云ふべし

の字と云ふべし

展轉 詩經云てうしことと云ふべし

喋喋 俗多言なり者と云ふべし

啻夫 謀謀利口捷給哉索隱云漢書作喋喋多言也

送代 人下代て事瓜物也  
田父 潘岳賦 談話 不過 農夫 田父之客 今修く 均の

朝議 潘安仁 關中詩 朝議 惟疑 今修く 人の 答 然はよ

方便 波の字の 於く こと 一

調伏 唐文粹 身口意 三業 難調伏  
傳受 元史 李俊民 傳得 河南 程氏 傳受之 學

正誤 顛ハ 手鼓 糸 粘 引 水 澗 的 斗 釘

出來 愧 田 樂 豆 腐 鐵 橋

諺州卷之五 終

中邑直衛

